

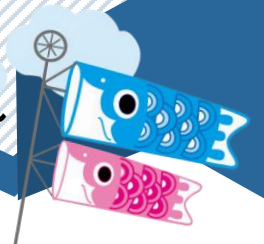
Labo News vol.4

～ 検査・輸血細胞治療部からのお知らせ～

Labo Newsは富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部ホームページから閲覧できます。

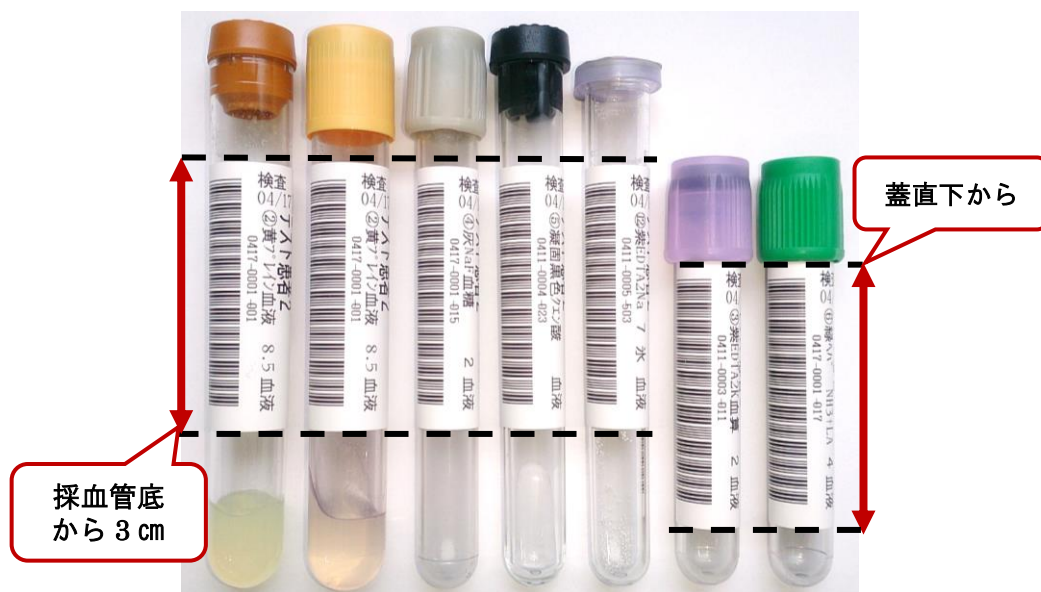
<http://www.hosp.u-toyama.ac.jp/clla/index.html>

サイボウズ掲示板「検査部から」よりカラーで閲覧・印刷できます。

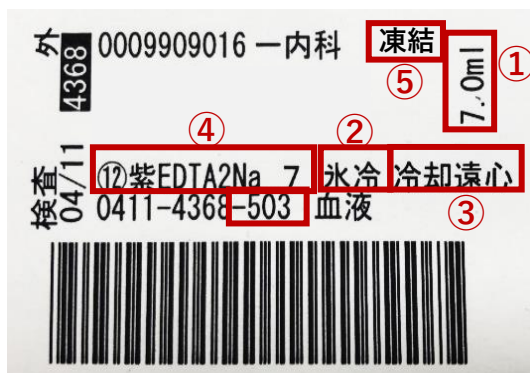


検査ラベル位置

ラベルを貼る位置が適切でないと、検査機器でバーコードを読み取れず、検査結果報告の遅延に繋がります。下図の位置に真っすぐに貼り付けて下さい。迅速な結果報告のため、ご協力をお願いします。



検査ラベル表記の説明



①採血量を表します。

過不足は検査ができず、再採血になる場合がありますのでご注意ください。

②提出条件を表します。

氷冷：採血後、氷冷にて提出。

③注意事項を表します。

転倒混和：採血直後に5回以上ゆっくりと。

量厳守：規定量しっかり。

要依頼書：採血と一緒に依頼書を提出。

冷却遠心：検査部用です。

保存・提出等には関係ありません。

遠心不可：検査部用です。

保存・提出等には関係ありません。

⑤検査部用のコメントです。

保存・提出等には関係ありません。

④容器の種類を表します。

例では 容器番号：②
容器名称：紫EDTA2Na 7mL
容器コード：503（下3桁の数字）

ALPとLDの測定法が変わります（1）

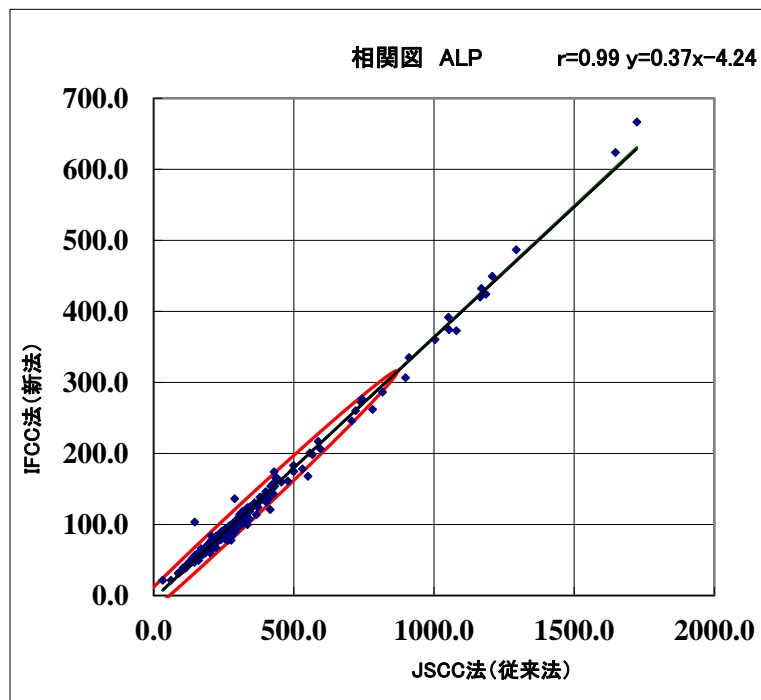
ALPとLDにつきまして当院ではJSCC法（JSCC：日本臨床化学会）を用いていましたが、日本臨床化学会より、令和2年4月1日から準備の整った施設からIFCC法（IFCC：国際臨床化学連合）への変更を推奨するとの基本方針が発表されました。当院の移行スケジュールは、令和2年5月26日よりALP・LD項目のIFCC法での測定開始を行い、令和2年9月頃までJSCC法とIFCC法での結果を併記致します。下記に新旧検査法での比較表を示しますので、宜しくお願いします。

移行スケジュール 令和2年5月26日より併記開始

ALP

変更内容	新法 (IFCC法)	従来法 (JSCC法)
検査項目名	ALP IFCC	ALP
検査方法	IFCC標準化対応法	JSCC標準化対応法
基準値	38~113 U/L	106~322 U/L

IFCC法（新法）では小腸型アイソザイムの測り込みが小さく、血液型B、O型でも食事の影響による偽高値が小さくなります。これにより、疾患と無関係な上昇が軽減し、肝・骨疾患の臨床的意義が向上します。JSCC法（従来法）と比べ**測定値が1/3程度の数値となりますので、基準範囲が変更となります。**

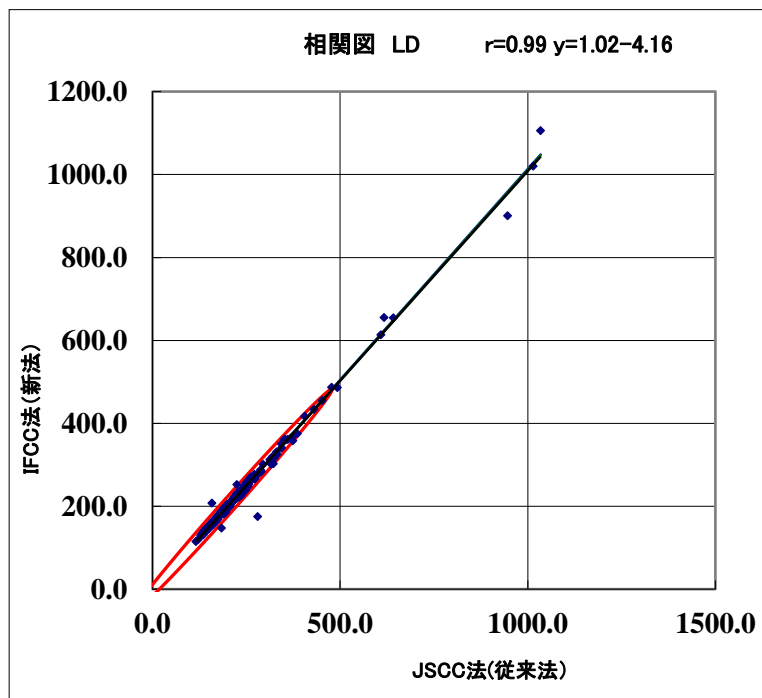


ALPとLDの測定法が変わります（2）

LD

変更内容	新法 (IFCC法)	従来法 (JSCC法)
検査項目名	LD IFCC	LD
検査方法	IFCC標準化対応法	JSCC標準化対応法
基準値	124~222 U/L	124~222 U/L

JSCC法（従来法）ではアイソザイムのLD5が相対的に高く測定されますが、IFCC法（新法）では、LD1とLD5がほぼ同等に測定されます。



細菌検査室からのお願い

血培ボトルの外装が新しくなりました。指示書ラベルは、下図の位置に貼ってください。その際、バーコードの向きが写真と同じになるように貼ってください。橙色ボトル・黄色ボトルも同様です。

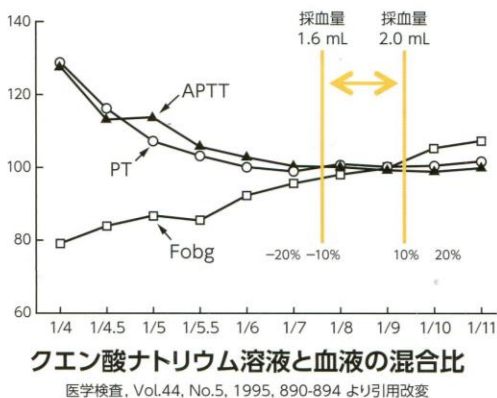


凝固検体の採血量厳守をお願いします

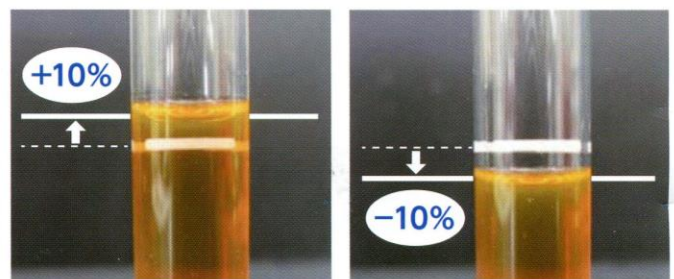
凝固検査では血液と薬液との比率が定められています。採血量の厳守をお願い致します。（許容範囲は採血量の±10%と定められています）

例 採血量による検査値への影響(凝固検査)

3.2%クエン酸ナトリウム溶液と血液の混合比を1:4～1:11までの10通り調整して測定した。
(混合比が1:9の時の値を100とした相対値)



■ 凝固検査管 (採血量1.8mL) の例



採血量：約2.0mL

採血量：約1.6mL

輸血細胞治療部門からのお願い



血液型検査用
(1回目の血液型チェック)

交差適合試験用検体
(2回目の血液型チェック)

1. 血液型検査用検体と交差試験用検体の採血は、必ず別採血をお願いします。

なぜ、別採血が必要なのか？

血液型検査と交差適合試験の検体を同時に採血すると、患者間違いがあった場合は不適合輸血につながる恐れがあります。実際、過去に他施設で患者間違いでの同時採血が原因で不適合輸血が行われ、死亡事故が起こっています。異なる時点で採血すれば、2回とも誤った患者から採血する可能性は低く、交差適合試験の際に患者誤認に気付く事が出来ると考えられています。

2. 交差試験用検体採血の時間帯について

原則として日勤帯での採血をお願いします（※緊急の輸血については、その限りではありません）。

なぜ、日勤帯の採血なのか？

暗い中で人手が少ない時間帯での採血は、患者間違いや検体取り違い事故を招きやすいためです。

※1・2とも医療安全・感染対策マニュアルに記載されている事項であり、遵守をお願いします。
ご不明な点がございましたら、輸血細胞治療部門（内線：7790）までご連絡下さい。

時間外の検査・輸血細胞治療部へのお問合せ

休日・時間外の検査・輸血細胞治療部へのお問い合わせは

時間外 PHS 070-5064-7356 までお願いします。

時間外内線番号も設けておりますが他検査のため離席し、出られない場合がございます。

検査部では問い合わせ番号の集約化を目指しています。ご協力のほどよろしくお願い致します。



検査輸血細胞治療部では
今年度、7名が入職しました。

